

(God の声)

さて、いろいろあったものの、家族の理解や協力があつて、何とか自宅退院することができました。自宅退院後は孫と一緒に幸せな毎日を過ごしていました。

しかし、3か月がたったころ、咳が悪化し、再度入院することとなりました。医師からは COPD に気管支炎があわさり、急激に症状が悪くなったといわれました。2週間で退院となりましたが、普段使うの酸素の量が増え、食欲が落ちてしまいました。

自宅に戻ってから食欲は一向に戻らず、一口二口しか食べない状態となつてしまいました。また、呼吸も、ちよつと動いただけで息苦しくなることが増え、ついには何もしていないのに息苦しく感じるようになりました。

長男や嫁は、肌がかさかさ、目にも力がない本人のことが心配でなりません。妻に相談し、病院に受診することになりました。本人も家族みんなに勧められて仕方なく受診することになりました。

※場面①※ (～カンファレンス室にて～)「舞台の右側に設定」

(God の声) カンファレンスルームで主治医からの病状説明が始まりました。

主治医 あれ、佐藤さんは？

鬼嫁 主人、自分は先生の話の聞かなくていいと言わんです。私に任せると・・・

主人はあみえて、気の小さいところがあって・・・怖がりなんですよ。

主治医 そうでしたか・・・では、お話ししますね。

今の佐藤さんの病状は COPD の自然な経過だと思います。落語の桂歌丸さんを思い出してください。COPD では徐々に痩せていき、普段の日常生活を送る中でさえ、息が苦しくなってしまうんです。

鬼嫁 主人、そんなに悪いんですか。

主治医 COPD は癌に比べて寿命がわかりにくいですが、ただ食事を考えると数か月でしょうか。急な悪化があれば、もっと短くなるかもしれません。

鬼嫁 このまま家に帰れないということですか。

主治医 そうですね・・・。奥様はどう考えていますか。自宅に戻ることを考えてみませんか。夫が悪くなってきたことはわかっていたつもりでした。息子や嫁も支えてくれる

ので、ここまでこれました。ただ、いざ目の前に死がせまっていると思うと、不安です。もし何かあった時にはどうしたらいいんですか。苦しそうなときにはどうしたらいいですか。

主治医 そうですね。まず、医療用麻薬を使って、息苦しさを緩和しましょう。症状が落ち着いたら、退院後のことを一緒に考えていきましょう。

〔全員椅子を持って退出〕

(God の声) 翌日、医療用麻薬が開始となりました。眠っている時間が増えましたが、表情は徐々に穏やかになってきました。

※場面②※ (～病室にて～)「舞台左側に設定」車イスとA氏とPT

PT 今日よりハビリテーションお疲れさまでした。息苦しさはどうですか。

A 氏 今はだいじょうぶだよ。ありがとう。薬が開始されてから楽になった気がするな。

PT それは良かったです。

A 氏 体力がだんだん落ちてしまったよ。自分は長く生きるとは望んでいなかったね、

とにかく楽にさえしてもらえればいいんだ。少し残念なのが、孫になかなか会えない

ことかな。ほんとには、自分の家の親みたいは畳の上で死にたかった。家族に囲まれて最期を迎えたかった。(ぼつりぼつりと)

[PT は A 氏の車イスをおしながら、舞台そでにはける]

※場面③※ (舞台上にPTと看護師)

PT 高山さん、佐藤さんのことなんだけど。「自分は長く生きるとは望んでいない。とにかく楽にさえしてもらえればいいんだ。」という話をされたんだ。それとね、その後続けて、「少し残念なのが、孫になかなか会えないことかな。ほんとには、自分の家の畳の上で死にた

担当看護師

かった。家族に囲まれて最期を迎えたかった』という話をされてね。

佐藤さんほんとに家に帰らなかったのね。奥さんの前では、負担かけたくないと思って言えなかったのかしら。自宅で最期まで過ごすには、なにをしたら良いのだろう。

みんなが集まって考えてみましょう。

ここからはグループワークへ移ります。佐藤さんが自宅で最期を迎えるのに必要なことをあげて、プランを立ててください。

（Godの声）